

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E142H010		有機化学 (Organic Chemistry)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部			氏名 芝原 雅彦 E-mail mshiba@oita-u.ac.jp 内線 7553											
授業の概要	有機化学の基礎となる化学結合論、分子構造論を学び各種官能基の反応論について解説する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 共有結合の成り立ちを理解し、分子構造を予測できるようになる。																	
目標2 官能基ごとの特性を理解し、その反応性を予測できるようになる。																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 有機化合物の体系と種類																	
2 価電子と共有結合																	
3 混成軌道																	
4 立体配座と立体配置																	
5 結合の極性と共鳴																	
6 アルカンとシクロアルカン																	
7 アルケンとアルキン																	
8 ベンゼンの構造と芳香族炭化水素																	
9 鏡像異性体																	
10 ハロゲン化合物																	
11 アルコールとエーテル																	
12 芳香環に置換した官能基																	
13 カルボニル化合物																	
14 カルボン酸とその誘導体																	
15 アミンと窒素化合物																	
ラ	A:知識の定着・確認	課題レポートや講義中の演習問題を通し、知識の定着を図る。					工	夫	そ	の	他	の					
ク	B:意見の表現・交換																
ニ	C:応用志向																
テ	D:知識の活用・創造																
グ																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	あらかじめ教科書を読み、自ら課題をみつける(15h)。															
	事後学修	講義内容を復習し、課題レポート(30h)により理解を深める。															
教科書	小林啓二著、演習でクリア フレッシュマン有機化学、裳華房、2012年																
参考書	学習指導要領																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	課題レポート	30%															
	定期試験	70%															
注意事項	なし																
備考	なし																
リンク	URL																